

# 仲間とともに、社会のために 自分の力を発揮できる人を育てる

立正大学の付属校として大きな指定校推薦枠を確保しながら、他大学への進学割合が例年6割を超える立正大学附属立正中学校・高等学校。現役進学率は90%以上を誇り、国公立や早慶上理をはじめとする難関大学に多くの合格者を輩出しています。2026年度は東京理科大の合格者数が14名に上るなど、理系の難関大学・学部合格者数増加が注目を集めました。「本校は難関大学進学だけを目指す指導を行っているわけではありませんが、入学前には考えもしなかった進路を勝ち取る生徒がたくさんいます。重視しているのは、一人ひとりが自分のやりたいことを見つけて、それを叶えられる道に進めるようにすることです」と語る校長補佐の今田正利先生に「立正ならではの学び」について伺ってきました。



## ▶大田区の「活躍人材育成プログラム」で優勝！ 立正の目標とする生徒が育っている

2025年度、大田区の高校生が1年間かけて探究活動に取り組む「活躍人材育成プログラム」に立正の高2の女子2人組「チームPlants」が挑戦し、見事に優勝を果たしました。これは、大田区が工業・商業・観光の3分野で抱える課題に対して、チームで解決策を提案する課題解決型のプログラムで、彼女たちは「池上梅園の活性化」をテーマに、SNSで活用できるフォトスポットの設置や近隣の店舗と協働で季節ごとの土産品を提供するなど、観光客を増やすための企画を提案しました。「内容はもちろん、プレゼンテーション資料や発表にも工夫を凝らし、高い評価をいただきました。特に区長からは『大田区ではこういう人材に活躍してほしいと考えています。ぜひ卒業後は大田区の職員に!』とお誘いの言葉をいただくほど(笑)、絶賛していただきました」。



▲「活躍人材育成プログラム」で優勝!

その後、「大田区観光協会」から声がかかり、今も一人の生徒はスタッフとしてプロジェクトに参加しているということです。「もう一人の生徒は美大受験の準備が忙しくなることから、観光協会の活動は辞退したのですが、今回のプログラムではパワーポイントの資料作成などで、その力を存分に発揮してくれました。彼女にとっても、将来につながる大きな経験になったと思います」。

このプログラムに参加したことが、それぞれのやりたいことを見つけて、具体化していくきっかけになったといってもいいでしょう。まさに立正の目標とする「仲間とともに、社会のために、自分の力を発揮できる人」が育っているのです。

## ▶中1から高1まで継続する R-プログラムで学びの土台を築く

立正では、Research(調べる)、Read(読み取る)、Report(表現する)の3つのスキルを伸ばすオリジナルのR-プログラムを展開しています。このプログラムの柱となるのは、毎朝のホームルームの時間に、新聞の社説やコラムを読み、意見文をまとめて発表するコラムリーディング&1分間スピーチです。学年が上がるにつれて、社会的・時事的・道徳的な内容にテーマを高めつつ、データ分析なども取り入れて、3分間スピーチ、グループディスカッション、ディベート、プレゼンテーションへとレベルアップしていきます。「R-プログラムでは何よりも継続性を重視し、中1から高1まで繰り返し取り組むことで3つのスキルを定着させていきます。それが探究活動で求められる考察力、思考力、表現力を高めるとともに、大学入試にも必要な自ら進んで学ぶ学習力を培い、社会に巣立ったとき、自分を支える確かな土台になると考えています」。



▲「R-プログラム」で学びの土台を築く

中学校3年間、独自のプログラムで行われるキャリア教育も立正ならではの特色があります。中1では社会で活躍する6~7名の卒業生を招く「職業講話」、中2では商品が手元に届くまでの社会全体の連携について学び、

地域活性化に向けた調べ学習に取り組む「職業理解」、中3では地元の企業を中心に3日間のインターンシップに参加する「職場体験」を実施します。「職場体験は、それまで頭で理解していただけの“仕事”というものに実際に取り組んで、おもしろさややりがいを感じるとともに、思うようにできない難しさや社会の厳しさも体感する絶好の機会です。AIが台頭し、多くの職業が失われると言われていますが、だからこそ、まずは今ある仕事を体験してみ、仕事とは何か、社会とは何かを肌で感じる事が非常に重要ではないでしょうか」。

文化祭のポスターも、地元の広告代理店で職場体験をした生徒が制作したものなのだから。こうした経験が一人ひとりのさまざまな将来につながっています。



◀立正祭のポスターは「職場体験」で生徒が作成



▲「職場体験」で仕事や社会を体感

## ▶一生の仲間と出会える チャンスがいっぱい!

立正では林間学校や修学旅行といった宿泊行事、合唱コンクール、体育祭など多くの行事が行われています。なかでも例年秋に行われる立正祭(文化祭)は、全校生徒が参加する最大のイベントです。各クラスから選出された実行委員を中心に、すべて生徒の手で運営し、当日は先生方も一緒に大いに盛り上がります。また、体育祭は暑さと雨を避けるために、今年度から代々木体育館で行いました。「室内だからこそできることを生徒とともに考え、従来通り、全員が思いっきり楽しめる内容になりました。まだまだ改善の余地はありますが」と今田先生は笑顔で話します。「学校生活でいちばん大切なのは、一生の仲間をつくることではないでしょうか。本校の卒業生を見ると、その後もずっと信頼し合い、社会人になっても協力し合っている仲間がたくさんいて、それこそが人生の宝だと確信します。中高6年間、そうした仲間に出会えるチャンスをたくさん用意しているので、ぜひ楽しみにして入学してください」。



▲立正生のパワーが弾ける「立正祭」

## 手帳が目標達成への 強みになる!



▲「スケジュール手帳」で自己管理を学ぶ

中学入学直後に配布されるスケジュール手帳は生徒が自分を客観的に振り返るためのツールで、日々の学習状況を記録したり、試験勉強の計画を立てたり、大切に思うことや反省点をメモしたりして、次のステップを自ら考える手掛かりになります。「中学から入学した生徒のいちばんの強みは、3年間手帳を活用することで自己管理ができるようになっていくこと。目標達成に向かう意思と分析力と調整力が培われています」。

